



大井和棚田を眺める案山子（久米郡美咲町）

撮影 徳田名誉院長

私たち津山慈風会は、地域の皆さんにやさしく寄り添います

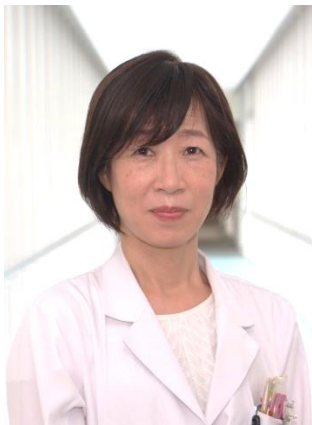
Topics

『 緩和ケア病棟 』

コメディカルスタッフの役割

『 緩和ケア病棟 』

コメディカルスタッフの役割



薬剤部
専門課長 芦田 直子

緩和医療では疼痛症状をコントロールすることが多く、痛みの特徴(病態)に合った薬剤選択をする必要があります。また、肝臓や腎臓の機能に応じた薬剤選択や、投与量の調整、副作用対策を含めた処方提案や薬剤同士の相互作用のチェック等も必須です。

私達薬剤師は、患者さんの症状を包括的にアセスメントし、他の医療者と協働してチームで関わることを大切にしながら、患者さんの状態に合わせた適切な薬物療法の提供や効果および副作用のモニタリングを行っています。

また、薬剤の効果を最大限にするためには、患者さん自身がその薬剤の必要性や特徴を理解することが大切です。患者さんが必要とする薬の情報、知識等を、適切なタイミングで、分かりやすく細心の配慮で提供するように心がけています。そのためにも患者さんやご家族の気持ちを聞きながら、常に寄り添い信頼関係を築いていくようにしています。

そして、患者さんのQOLを維持できるよう、病院薬剤師および薬局薬剤師が連携・協力し、入院から在宅まで継続した薬物療法の実施に努めています。

今後も患者さんにご家族の方に安心感の提供ができるよう薬物治療に関する責任を果たしていきたいと思っています。



緩和医療が必要な患者さんが、「住み慣れた家で最期まで過ごしたい」との思いがある場合、身の回りの介助や医療ケアが必要であったり、急な体調の変化に不安を抱いたりする方も少なくありません。そこで私たちMSWは、患者さんやご家族の意向を確認し、自己決定を尊重しながら療養の場が変わることで起こりうる問題の解決を図ります。また、自宅で安心して療養生活を送ることが出来るよう在宅療養を担う方々とも連携をしています。このように地域の医療機関の皆様のお力をお借りしながらMSWもチーム医療の一員として患者さん・ご家族に寄り添い、安心した療養生活を送ることが出来るようサポートしたいと考えています。



社会福祉士
池上 智美





リハビリテーション部
(がん患者リハビリテーション研修終了者)

緩和ケア病棟での最終目標は、患者さんの人生の質(QOL)向上であり、「その人らしさ」を支えるための取り組みを行うチームの一員としてリハビリテーション(以下リハ)部も関わります。

リハ部では、身体機能の改善・ADLの維持・疼痛や倦怠感の軽減・精神面/QOLの改善などを目的に、身体機能やADL改善を目的とした訓練に加え、苦痛症状に合わせた徒手療法、呼吸排痰訓練などを組み合わせて包括的リハを行います。

また、患者とその家族の思いを十分に把握し、リハ中の何気ない会話の流れから身体的苦痛のみでなく、心理社会的な苦痛、精神的苦痛、スピリチュアルな苦痛を聴取します。そのリハ中に得られた情報は多職種で情報共有し、チームとして医療を提供します。



7月1日に緩和ケア病棟が開設され、ご自分のペースで過ごしてもらえ、静かな環境を提供出来るようになりました。

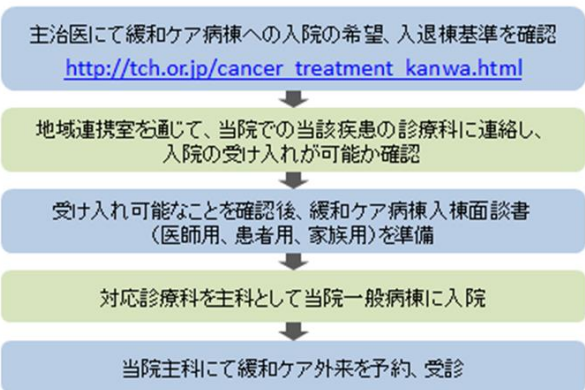
緩和ケア病棟では、がんの治癒を目的とした医療行為は行わず、痛みやその他の身体的苦痛を和らげるために必要な処置やケアを行っています。また、元気な時には当たり前に出ていたことが難しくなっていく中で、今出来ていることを維持することや、朝まで眠る・食べたいものを味わう・自分でトイレへ行くなどの希望を支えるための工夫を日々考え、実践しています。時には患者さんから気持ちのつらさを表出されることや、自分の死が近いことを感じ、気がかりを口にされることもあります。看護師として何が出来るのかと途方に暮れることもありますが、1人の人として患者さんやご家族と向き合い、丁寧に対話をしていくことも大切にしていきたいと考えています。

始まったばかりの病棟ですが、1人1人の患者さんとの関わりを大切にしながら、病棟としての経験を積んでいきたいと思っています。



N3 階病棟(緩和ケア病棟)
専門師長 上原 徳子
緩和ケア認定看護師

地域医療機関からの紹介の流れ



セミナー・講演会情報

●CC セミナー（Web 併用のハイブリッド形式）

講演 『 褥瘡の保存的治療 』

- ・ 講師 形成外科 部長 奥本 和生 先生
- ・ 日時 2023 年 9 月 12 日（火） 19 : 00 ~ 20 : 00
- ・ 場所 津山中央病院 研修センター2F 講義室

第 7 回連携登録医懇親会開催のご報告

去る令和 5 年 8 月 17 日(木)4 年ぶりに第 7 回連携登録医懇親会を開催しました。

平素よりお世話になっている連携先の先生方、コメディカルスタッフ、および行政機関の方を含め、47 施設から総勢 119 名の方々にご参加いただき、当院から参加したスタッフ 72 名と親睦を深めていただきました。この場をお借りしまして御礼申し上げます。

これを機により一層、顔と顔が見える関係をめざして、地域医療の発展に貢献して参ります。

